

東京駅の復原屋根に採用した板金技法

鹿島建設株式会社 建築管理本部建築技術部技師長

高村 功一

明治以前より、板金の技法には鈍し(なまし)と叩きだし、はぜ掛け、かしめ、蠟付け(半田付け)等があつて、これらを巧みに組み合わせて屋根を葺いていた。一方、籠絞りや熔接は近年に開発された技法で、東京駅建設当初には存在しなかったと考えられる。施工にあたっては、できる限り前者の技法を採用することとし、止むを得ない場合に限り後者の技法も使用した。

東京駅復原に際して使用した各種板金技法を紹介・解説する。